

厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた中長期的影響の
調査研究—今後の保健・医療体制整備の観点から—(23HA2011)
研究報告書

臨床内科部門の研究の立案とデータ解析

① 臨床内科グループ

研究 16

研究分担者	山口聡子	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座	特任准教授
研究協力者	岡田啓	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座	特任講師
研究協力者	南学正臣	日本医学会連合	副会長
研究協力者	門脇孝	日本医学会連合	会長

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の拡大の内科診療に対する影響について、複数の病院から収集された DPC データおよびレセプトデータを含むデータベースを用いて、入院診療、外来診療などについて評価した。一部のがんの診断数の回復が遅れており、健診施設を対象とした調査で 2022 年末時点での市区町村がん検診件数の回復が遅れていたという結果と合致しており、今後も長期的な影響の評価が必要である。

① 臨床内科グループ

研究 16. データベースを用いたコロナ禍の内科系診療に対する影響の評価

A. 研究目的

DPC データおよびレセプトデータを含む大規模データベースを用いて、コロナ禍が内科系の入院、外来診療などに与えた影響を評価する。

B. 研究方法

複数の医療施設におけるレセプトデータおよび DPC データを含む市販データベースを用いて、2017 年 1 月から 2023 年 8 月までの期間の内科系の入院診療、外来診療、処方、処置について、コロナ禍前後での比較を行う。分割時系列解析(Interrupted time series: ITS)を用いた解析を行う。また、人口動態統計の死因別の死亡数についても同様の解析を行う。

(倫理面への配慮)

匿名化された市販データベースとオープンデータを用いており、同意の取得は不要である。本研究計画は東京大学の倫理委員会で承認されている(2018030NI)。

C. 研究結果

既にコロナ禍の初期において呼吸器疾患の入院が著減したこと、内視鏡検査や外来のリハビリ件数が減少したことなどを発表した（Yamaguchi et al, BMJ Open, 2022）。ITS 解析では、肺炎、インフルエンザウイルス感染症、急性気管支炎、喘息、COPD、誤嚥性肺炎による入院はいずれもパンデミックの開始と一致して有意な減少がみられた。また、肺炎、急性気管支炎、COPD による死亡はパンデミックの開始と一致して有意な減少がみられた。

がんの診断数では、特に胃がん、大腸がん、前立腺がんなどでパンデミックの開始時に有意な減少がみられ、内視鏡検査や前立腺生検が減少したことと合致していた。前立腺がんの診断数は回復したが、胃がんの診断数については 2022 年末時点でも早期がんで特に回復の遅れが見られた。

また、外来リハビリの件数は、パンデミック開始と一致して有意な減少がみられ、特に運動器のリハビリ件数で回復の遅れが目立った。

D. 考察

臨床内科グループの日本人間ドック学会と共同で行った全国調査で、2022 年末時点で市区町村がん検診の回復が遅れていることがわかっており（Yamaguchi et al, JMA J, 2024）、早期胃がんの

診断数の回復の遅れは、検診受診件数の回復の遅れの影響が考えられる。

E. 結論

大規模データベースを用いて、ITS 解析により、コロナ禍の内科系診療への影響を評価した。一部のがんの診断やリハビリで回復が遅れていることから、今後長期的な影響の評価が必要である。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

なし（投稿準備中）

H. 知的財産権の取得状況

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |